

製品ごとの使用方法

【抑制帯のベッドへの取付けについて】

【ベッドへ取り付ける抑制帯の種類】

腹部用ベルト、手部／脚部用ベルト、脚部／肩部調整ストラップ、ストラップ

【安全な取付が可能な位置】

- ・下図で示す、可動部分には安全に取り付けることが可能です。
- ・昇降式ベッドの非可動部分へ取り付けると、ベッドを昇降させたり背上げ・脚上げを行った際に、ベルトや付属品が強く引っ張られて破損する恐れがあります。フレームへ取り付けの場合は、ベッドの昇降や背上げ・脚上げを行わないようにしてください。

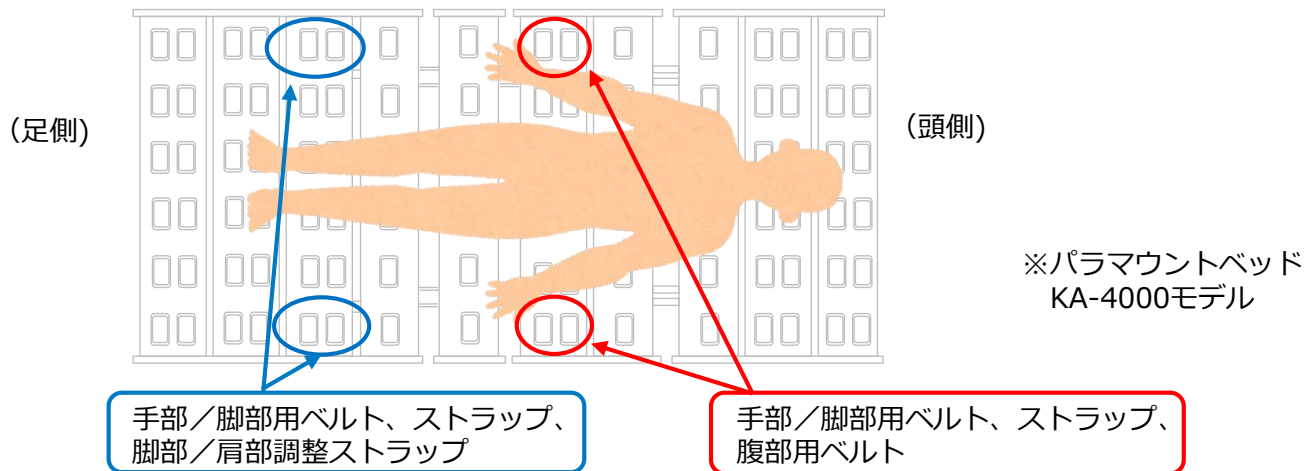
製品ごとの使用方法



- ・ベッドの底板の下で腹部用ベルトのストラップ同士を直接繋げると、患者がベッドからずり落ちる危険があります。ストラップの先は必ずベッド本体へ取り付けてください。
- ・サイドレールなど不安定な部分への取り付けは危険ですので、グラグラしない丈夫な部分へ取り付けてください。

【抑制帯の固定位置 推奨例】

- ・下図の例を参考に、実際に使用されているベッドの形状に合わせて適切な位置へ取り付けをしてください。ベッド底板に取り付けた場合の推奨位置を丸囲みで示しています。



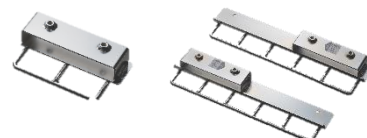
【ご参考：底板にベルトを通して例】



左図のように、底板にストラップを通す場合、鳩目と底板の断面が接触することで、鳩目の損傷を引き起こす可能性が高くなります。使用ごとになるべく違う場所の鳩目を使うか、鳩目が歪んだり生地から取れそうになっている場合は、使用を中止してください。

パラマウント社製ベッドの一部製品については、抑制帯専用の「抑制帯受」取扱いがございます。適合機種や製品の詳細については、パラマウントベッドお客様相談室（フリーダイヤル 0120-03-3648）へお問い合わせください。

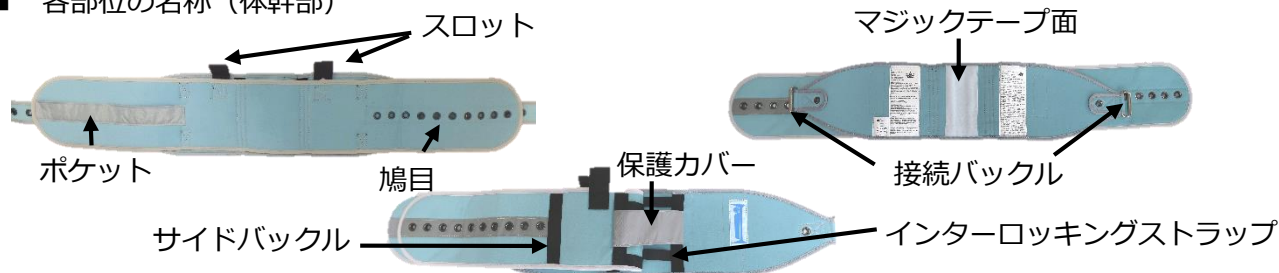
受付時間：1/1～1/3除く9時～17時



製品ごとの使用方法

【PINEL #1 腹部用ベルト】

■ 各部位の名称（体幹部）



■ 使用目的

- ・体幹部を固定することで、患者のベッドからの抜け出しを抑制します。
※腹部用ベルト単体だけでなく、股下ストラップや抜け出し防止ベルトなどの組み合わせにより、安全を確保してください。
- ・ストラップを寝返り調整用として組み合わせて、患者のベッドからの転落を防止します。

■ ご使用の前に（点検）

- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。

■ 使用方法

体幹部の左右の接続バックルとベッドを繋げるストラップの固定方法は、2通りあります。それぞれの利点や目的に応じて、固定方法をお選びください。

①-1 体幹部とストラップを一体型になるようにあらかじめ繋げて常時固定しておく方法

- 【特徴】
- ・旧型のストラップ一体型と同じような感覚で使うことができる。
 - ・腹部用ベルト本体をベッドに取付けたままにできるため、患者側の脱着は毎回必要。
 - ・強く引っ張りすぎると、接続バックルの金具同士が噛み合っ外れなくなることがある。

【固定方法】

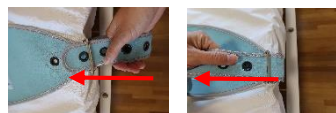
体幹部の左右にある接続バックルに、PINEL #1C ストラップを通しておきます。



ストラップ先端を接続バックルにくぐらせる



くぐらせた先をストラップのバックルにぶつかるまで引く



ストラップのバックルに先端をくぐらせて根元まで引く



完成

【CHECK!】【バックルを表面に出さない工夫】

ストラップの裏面を上にして、体幹部の内側から外側に向かって先端を通すと、完成したときに体幹部の接続バックルがマットレス表面に現れないため、患者の体にバックルが直接当たることを防ぐことができます。

腹部用ベルトをベッドに配置します。



股下ストラップを併用する場合は、この時点であらかじめ取り付けしておく必要があります。




【裏表と上下】


マジックテープ面の付いている側がマットレスに接地するようにして、スロットが頭側に来るように置きます。

【左右位置のめやす】

体幹部がベッドの中央に均等に来るようにします（幅が90cmのベッドであれば、接続バックルの左右がおおむねマットレス端に当たります）。

製品ごとの使用方法

 腹部用ベルトとマットレスの間に余分な浮きが出ると、患者が足などを隙間に差し入れる危険があります。沈み込みの深くないマットレスを使用するなどして、注意してください。

 鳩目がベッドの底板やフレームに当たり強い負荷がかかることで、鳩目が変形したり外れることがあります。使用ごとに鳩目の点検を行ってください。

ストラップをベッドに固定します。



はじめにストラップの片側を、ボタンとピンを使ってベッドに固定します。次に、反対側のストラップを強く引き、ゆるみのないように同じくベッドに固定します。ストラップの余った部分は折り返して留め付けるなどしてください。
※ベッドへの固定については、【抑制帯のベッドへの取付け】を参考にしてください。

①-2 ストラップをベッドに常時固定し、体幹部はその都度取り外す方法

- 【特徴】
- ・患者の体幹部ベルトを付けたままでベッドから移動させることができる。
 - ・ストラップをベッドに取付けたままにできるためトイレや車椅子への移動が容易だが、ベッドに戻った時にその都度左右のストラップを再度つなげる必要がある。
 - ・ベッドへの取付けが容易ではない場所に固定している場合、いちいちストラップを外さずに済む。

【固定方法】



ベッド側には、ストラップの先端を通す。



バックルにぶつかるまで手前に強く引く。もう反対側も同様にベッド側に通しておく。



体幹部を患者の下に差し入れる。または、体幹部を装着した患者を寝かせる。



ストラップの先端を、体幹部側の接続バックルに通す。片側をボタンとピンで固定したら、もう片側も同様に固定。反対側を固定する時は、ストラップをしっかり引いて緩みなくしっかり取付けるようにする。

④ 体幹部を患者の腹部に巻いて固定します。



体幹部の左右を広げて、患者を寝かせます。このとき、体幹部を患者の胴のくびれに巻き付けるようにします。

上部は肋骨、下部は腸骨にかからないようにします。

足元から見たときに左にある裏ポケットが付いている面を、最初に被せます。次にピンを通す鳩目の位置を決めます（中央1箇所、または間隔を開けて2箇所のうちどちらでも可ですが、フィット感を高める場合は2箇所を推奨）。

※股下ストラップを併用する際は、鳩目穴ひとつ分の間を開けて2箇所ピンを通します。



ピンを通す鳩目の位置を決めたら、体幹部裏面のポケットの隙間からピンを差し入れて、ピン先端を鳩目穴から出します。



#6L ひも付きボタン・ピンは、紐が体幹部の幅よりも短いため、体幹部の固定に使用することができません。ひもの付いていないボタンとピンをご用意ください。

製品ごとの使用方法



足元から見たときに右にある面を左面に被せて、患者の胴に巻き付けます。被せた面の鳩目穴からピン先端を出します。



体幹部を巻き付けた状態で手の平がすっぽりと全て入り込むような隙間は、緩みの原因となり、腹部用ベルトの位置ずれを起こす危険があります。患者が締め付けのきつさを感じるようであれば、股下ストラップや抜け出し防止ベルトを併用して、腹部用ベルトの位置ずれを防止してください。



ピン先端にボタンを被せてロックします（左図は中央1箇所での固定。右図は中央2箇所での固定）。ボタンを引っ張り、確実にロックされているかどうか、確認してください。



腹部用ベルトだけを単独で使用すると、危険な事故のリスクが伴います。

① **緩んでいたり、締めすぎになっていませんか？**

緩みすぎは患者の抜け出し、肩や首が絞まってしまう原因になります。反対に、締めすぎると呼吸を妨げたり、腸管麻痺の危険性が生じます。

着用後も、患者が動くことで緩みが生じていないかどうか、呼吸を妨げるきつさになっていないかどうかなど、頻繁にチェックをし、適切な締め具合にしてください。

② **ベッド上で旋回しようとするなど、不穏な状態になる可能性はありませんか？**

腹部用ベルトだけを単独で使用しますと、患者がベッド上で起き上がり旋回することで、腹部用ベルトが捻じれを起こし、胴回りが締め付けられる恐れがあります。不穏な状態の患者には特に注意し、体幹部の左右にストラップを装着し、最低でも片足に手部／脚部用ベルトを装着するなどして、旋回を防ぐようにしてください。

③ **ベルトの上下位置が不適切な状態になっていませんか？**

胸郭方向にずり上がると、胸郭圧迫による窒息の危険が生じます。また、臀部方向にずり下がると、腹部用ベルトから抜け出ししてしまう恐れがあります。ずり上がり防止には、#11 股下ストラップの装着を、ずり下がり防止には、#3 抜け出し防止ベルトを併用してください。

④ **ベッドから転落しないよう、十分な対策をしていますか？**

常時の見守りが難しい場合は、転落を防ぐために腹部用ベルトの左右に#1C ストラップを装着し、寝返り幅を調整してください。ただし、ストラップをたるませすぎると、ストラップの隙間に患者が足を差し入れるなどの危険な状態を招く恐れがありますので、ご注意ください。ストラップをどの程度たるませるかは、患者の体型や症状などに応じて適切に取り付けてください。寝返り幅を大きくしている場合は、絶えず患者の様子を観察してください。

⑤ **劣化したり破損している腹部用ベルトを使用していませんか？**

ベルトの耐用年数は5年です。耐用年数を過ぎる前でも、ベルト全体が縮んでいる、生地全体の厚みが薄くなっているなど劣化が認められる場合や、縁の内側部分がほつれている、ブルーの生地が破れて芯地が露出する、鳩目や金具が取れているなど破損が認められる場合は、ご使用を中止し、お早目にお買い換えをお願いいたします（鳩目の単純脱落の場合、ベルトの劣化や破損が軽微であれば、鳩目追加の修理も可能です）。

製品ごとの使用方法

【PINEL #11 股下ストラップ】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・腹部用ベルトを上へ押し上げて抜け出そうとする動きを防止します。
- ・患者のベッド上での旋回を抑制します。

■ ご使用の前に（点検）

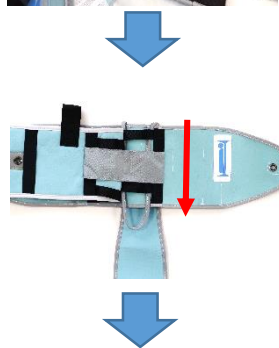
- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。

■ 使用方法

- ① 患者に装着する前に、あらかじめPINEL #11 腹部用ベルトに、股下ストラップ本体を通しておきます。

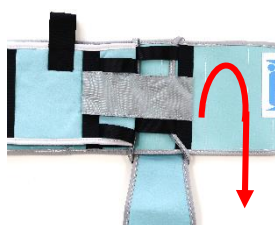
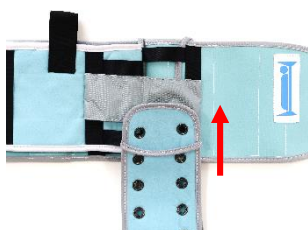


股下ストラップの黒いマジックテープ面から保護カバーを外して、腹部用ベルト裏面にある白いマジックテープ面と貼り合わせます。このとき、股下ストラップのループが付いている方と、腹部用ベルトの黒いスロットが頭方向に向くように、それぞれの上下を確認してください。



腹部用ベルトの片面（左右どちらでも可）をめくると、インターロッキングストラップが現れます。股下ストラップのループをインターロッキングストラップの下にくぐらせて通します。ループの先端が腹部用ベルトの足方向の端に少しはみ出るような形になります。

※分かりやすくするために、左図では保護カバーのないものを使用しています。



股下ストラップの端をループの輪の中にくぐらせて通します。通しきると、股下ストラップと腹部用ベルトが一体化します（完成）。

- ② 腹部用ベルトをベッドに固定します。

※ P16～P18をご参照ください。

- ③ 患者を寝かせて装着します。



腹部用ベルトの体幹ベルトと股下ストラップを広げた状態で、患者を寝かせます。体幹ベルトを巻き付けてみて、ボタンピンを留め付ける位置を確認します。患者の股の間から体幹ベルトの上に股下ストラップを被せて、できるだけ真っすぐ中央位置に付けられるようにします。体幹ベルトと股下ストラップの鳩目穴の位置を合わせて、一緒にボタンピンで留め付けます。このとき、体幹ベルトの鳩目穴は、隣り合わせの2箇所では留められないので、ひとつ開けて2箇所を使います。



股下ストラップの締め付け具合は、ストラップと股の間に2～3cm程度の隙間ができるくらいを目安にしてください。隙間が大きすぎると、腹部用ベルトが上方向にずり上がり胸部圧迫を引き起こす可能性や、両脚が股下ストラップの間から抜け出る危険が生じます。

製品ごとの使用方法

【PINEL #2 延長ベルト】

製品ごとの使用方法

■ 各部位の名称

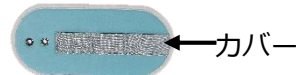
＜裏カバーなし＞
腹部用ベルトの向
かって左面に被せ
るための鳩目穴

＜表面＞



＜裏カバーあり＞
腹部用ベルトの向
かって右面に被せ
るための鳩目穴

＜裏面＞



■ 使用目的

- ・使用している腹部用ベルトの胴周りの長さが足りない場合に、対応胴囲を延長します。

■ ご使用の前に（点検）

- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。

■ 使用方法

① 腹部用ベルトの体幹部の片面に延長ベルトを取り付けます。



(図1)



(図2)



(図3)

この面を中央に向けて
畳んだ状態で、その上に延
長ベルトを重ねます。

延長ベルトの裏面

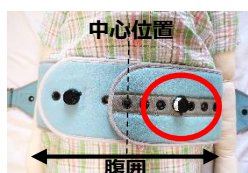
腹部用ベルトの向かって左側にある体幹部を中央に向けて折り畳み、延長ベルトの表面を被せて（図1）、＜裏カバーなし＞の2つの鳩目穴の1点、もしくは両方を使って、一緒に留め合わせます。留め合わせるときは、体幹部の左面にあるカバーの隙間からピンを差し入れて（図2）、ピン先端を延長ベルトの鳩目穴から出し、ボタンで固定します（図3）。患者の腹部に対して左右均等にボタンピンを留め付けられるよう、どの位置の鳩目を使うか、体型に応じて決定します。
※ひもの付いていないボタンとピンを使ってください。

② ①でセットした腹部用ベルトの体幹部片面を巻き付けます。



腹部用ベルトをベッドに固定し、患者を寝かせます。①で延長ベルトを取り付けた体幹部の左面を患者の胸に被せます。患者の腹部に対してなるべく左右均等にボタンピンを留め付けられるよう、延長ベルトの＜裏カバーあり＞のどの位置の鳩目を使うか位置を決めます。

③ 体幹部の右面を被せて装着します。



中心位置

腹囲



↑左右2点での
装着例

②で決めた鳩目穴の裏側にある、カバー隙間から、もうひとつのピンを差し入れて、ピン先端を表面に出します。腹部用ベルトの向かって右側にある体幹部を上から被せ、ピン先端を鳩目穴から出し、ボタンで固定します。1点または2点で固定できますが、2点で固定すると、より安定感が向上します。
※ひもの付いていないボタンとピンを使ってください。



ボタンとピンの留め付け位置がうまく左右均等にならない場合は、手順①に戻り、体幹部の鳩目位置を変えるなどして左右位置が均等になるように調整してください。



1本の腹部用ベルトに対し、1本の延長ベルトをご試用ください。延長ベルトを2本以上を連結させると、体幹部の装着が不安定になります。

■ 股下ストラップを併せて使用する場合

① 腹部用ベルトに股下ストラップを取り付けます。



股下ストラップをあらかじめ腹部用ベルトに取り付けておきます（P19 参照）。

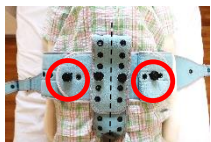
製品ごとの使用方法

② 股下ストラップを折り上げて、延長ベルトに取り付けます。



患者を寝かせ、股下ストラップの先端を折り上げたら、延長ベルトの真ん中2つの穴を使って一体化させます。延長ベルトのポケット面が患者の腹部に当たるようにしてください。股下ストラップの引き上げ具合は、患者の鼠径部と股下ストラップの間に2.5cmほどの余裕ができるようにしてください。

③ 股下ストラップを折り上げて、延長ベルトに取り付けます。

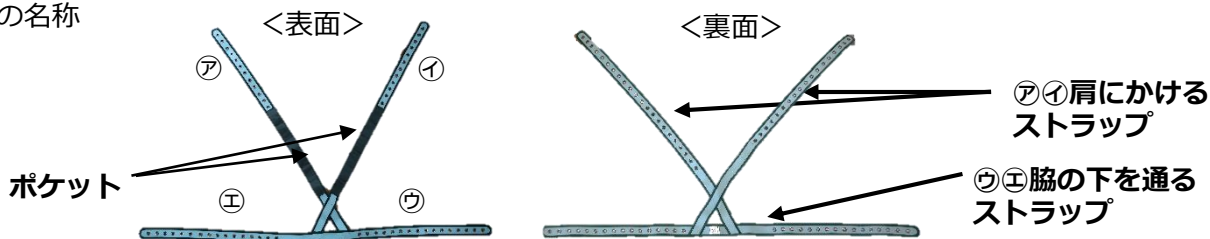


中心位置

腹部用ベルト体幹部の左右に、延長ベルトの左右の鳩目穴を使って接続します。体幹部のどの位置の鳩目穴を使うかで、患者の胴回りに最適な締め具合が決まります。このとき、できるだけ腹部用ベルトの左右の鳩目位置を均等に同じ場所にして、中心位置が斜めに傾かないようにしてください（微調整幅が鳩目1つ分の場合は、多少中心位置がずれますが、特に問題はありません）。また、腹部用ベルトや股下ストラップの余ったベルト部分は、折り返して留め付けても結構です。

【PINEL #3 抜け出し防止ベルト】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・腹部用ベルトを下へ押し下げて抜け出そうとする動きを防止します。
- ・臥位にある患者が急に興奮して起き上がることを防止するために、上半身の起き上がりを抑制します。

■ ご使用の前に（点検）

- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。

■ 使用方法 1 : 腹部用ベルトの下方向への抜け出しを防止

① 抜け出し防止ベルトを正しい向きでベッドに広げます。



ポケットが見える方が表面になります。X形の肩にかけるストラップア①の先端が頭方向に向くよう、配置します。X形中央の直線状の脇の下を通るストラップウ②が、患者の背中中央位置に来る辺りに置くように広げます。
※分かりやすく図示するために、ストラップそれぞれにカラーテープを貼っています（実際の製品にはカラーテープはありません）。

② 腹部用ベルトの背面のスロットに抜け出し防止ベルトを通します。



腹部用ベルトを装着した患者をベッドに寝かせ、上半身を起こさせます。腹部用ベルトの背面にあるスロット2箇所に、脇の下を通るストラップウ②をそれぞれ通します。左右が均等になるよう、白いタグやX形の交差部分が真ん中に来よう目安にし、通してください。

③ 肩にかけるストラップを腹部用ベルトに留め付けます。



肩にかけるストラップア①を患者の肩にかけて前面に持ってきます。患者を寝かせて、腹部用ベルト体幹部を中央で留め付けているボタンピンのボタンを一度外して、ア①をピンに被せて、一緒に留め付けます。抜け出し防止ベルトを留め付ける際は、腹部用ベルトの体幹部は中央1箇所で留めてください。サスペンダー状に2箇所で留め付けると、ストラップが肩からずり落ちる危険性があります。

製品ごとの使用方法



締め付け具合が緩すぎると、ストラップがずり落ちたり、腹部用ベルトの位置ずれを起こす原因となります。呼吸を妨げない程度のきつさに、しっかりと締め付けてください。患者が動くことで緩みが生じた場合は、留め付け位置が適切かどうか、その都度確認してください。

④ 脇の下を通るストラップ④を通します。



脇の下を通るストラップ④を、患者の脇下から、肩にかけるストラップ②のポケットに通してくぐらせます。くぐらせた先は、肩にかけるストラップ①に交差するように持っていきます。

⑤ ストラップの留め付け位置を決めます。



患者の脇と鎖骨の中間位置くらいの場所を目安に、留め付け位置を決めます。位置が決まったら、肩にかけるストラップ①のポケットの隙間からピンを差し入れて、脇の下を通るストラップ④を被せます。

⑥ 脇の下を通るストラップ④を重ねます。

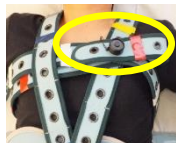


脇の下を通るストラップ④を、患者の右肩方向に引っ張り上げ、ストラップ④の鳩目穴を⑤で差し入れたピンにかぶせてボタンで留め付けます。



鎖骨にピンがかかると、患者の痛みや不快感の原因となりますので、鎖骨にかからないようにします。

⑦ 余分なストラップの端を処理します。



留め付けた先からの余分なストラップ④④は、ポケット部分に挟み込む（左図）、ボタンピンに合わせて留め付ける（右図）などして、邪魔にならないようにしてください。



上半身の圧迫感を軽減しながら腹部用ベルトの位置ずれを防止したい場合や、カテーテルの装着などにより頸部への接触を避けたい場合は、抜け出し防止ベルトではなく、股下ストラップをご使用ください。

■ 使用方法 2 : 上半身の起き上がりを防止

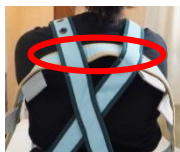
・腹部用ベルト、脚部／肩部調整ストラップとの組み合わせで、上半身の起き上がりを防止します。

① 腹部用ベルトに抜け出し防止ベルトを取り付けます。



P21 ~ P22 までの手順で、腹部用ベルトに抜け出し防止ベルトを取り付けて、患者に装着しておきます。

② 抜け出し防止ベルトに脚部／肩部調整ストラップを通します。



患者の背中側の肩甲骨付近を目安に、脚部／肩部調整ストラップを抜け出し防止ベルトの左右ポケットの間にくぐらせて、通します。

③ 脚部／肩部調整ストラップをベッドに固定します。

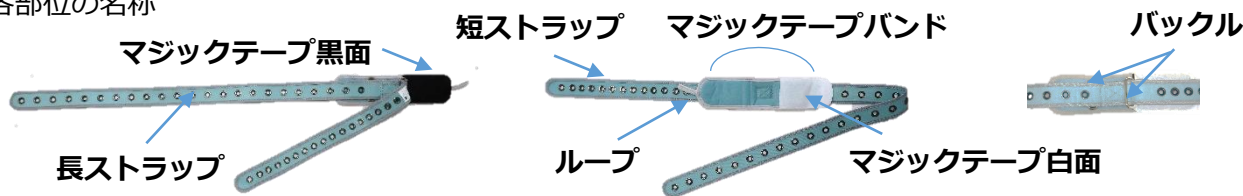


患者を寝かせたら、脚部／肩部調整ストラップの両端をベッドに緩みのないように、きつく固定してボタンピンで留めつけます。

製品ごとの使用方法

【PINEL #4 手部/脚部用ベルト】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・興奮度の高い患者の手首や足首に装着することで、手足の抑制が可能になります。
- ・点滴固定部や手術後の縫合部に触れさせないように、腕の可動域を調節することができます。
- ・脚部/肩部調整ストラップと併用することで、足の可動域を瞬時に調節し、状態の不安定な患者の急な興奮に対応することができます。

■ ご使用前に（点検）

- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。
- ・マジックテープの接着力が低下していないかどうか、点検をお願いいたします。



【点検方法】医療スタッフの手首に接着して巻き付けたのち、長ストラップをベッド柵等の強固な場所に留めつけて、力いっぱい引っ張ってみてください。引っ張った際にマジックテープが外れるようであれば、速やかにご使用を中止してください。なお、ベルト本体の損傷がない場合、マジックテープは張替え修理対応が可能です（有料修理）。

■ 使用方法 1 : 基本的な手足の抑制

① 手部/脚部用ベルトをベッドに取り付けておきます。



x印縫い目

【置き方】マジックテープバンドのX印の縫い目が表になるようにします。短ストラップはベッド中央方向、長ストラップはベッド外側方向に向けて置きます。長ストラップはベッド本体に取り付けることができるように伸ばします。



手に着用する場合は、仰向けに寝た患者の腕を自然にベッドに置いた状態での手首の位置、足に着用する場合は、患者の足首の位置あたりに来るようにします。患者を寝かせたときに、両手を自然に体の横へ置いたときに手首に巻き付けられるようにしてください。足は自然に少し開くような恰好で留め付けられるようにしてください。開きすぎると患者の不安感を煽り、反対に閉じすぎると患者が窮屈に感じます。いずれも、ベッドにボタンピンを使って留め付けてください（P8 参照）。



必ずしも四肢全ての分として4本を用意する必要はありませんので、緊急固定や点滴固定など、目的に応じた本数のベルトをご使用ください。

② 患者を寝かせてマジックテープバンドを装着します。



片手で黒いマジックテープ端先端にあるベロを持ち、もう一方の手で白いマジックテープ先端を持ちます。黒いマジックテープを巻き、白い方を黒の上に被せるという順序になります。手の甲・足の甲にかからないよう、腕時計をはめるような位置につけます。

【手首の置き方】手首：手首の内側がバンド内側のXの縫い目に面するように置く



手首や足首の形状に合わせ、**少し斜めに重なるように均一に**巻きつけます。マジックテープが重なる面積が多ければ固定が強くなります。緊急固定の際は、角度をあまり気にせず素早く巻き付けることが大事ですが、患者の動きをとりあえず抑制したら、改めてマジックテープバンドをちょうどよい角度に巻き直します。

角度の目安としては、手首・足首の細いところから太いところへの傾斜と同じくらいになるようにします。装飾品や衣服の袖を取り除いた後、固定場所が部分的にきつくなならないよう、患者の手首や足首の太さに合わせ隙間なく巻きます。



マジックテープバンドが外れないようぴったりと装着することが大切ですが、きつく留めすぎると患者の血流を妨げる危険性がありますので、注意しましょう。

製品ごとの使用方法

③ 短ストラップをマジックテープバンドに巻き付けます。



緊急固定以外の使用時は、短ストラップをマジックテープバンドに巻き付けておきます。短ストラップをマジックテープバンドの上にかぶせ、反対側の金属バックルに通します。患者の手首（足首）の上にくる場所にピンを差し入れて、ボタンを被せて固定します。余ったストラップは折り返して留め付けることもできます（ベルト4層まで可）。



短ストラップを巻きつけておくことで、患者が歯でマジックテープバンドを開けることを防ぎます。また、マジックテープの接着力が低下して万が一外れてしまった場合にも、短ストラップを巻きつけていれば、すぐに手部/脚部用ベルトが外れてしまう危険もありません。手首・足首が非常に太い患者でマジックテープの重なり面積が十分広く取れない場合にも有効です。



短ストラップは、あくまでもマジックテープバンド面の補助として巻き付けます。きつく留めすぎると患者の血流を妨げる危険性がありますので、注意しましょう。

■ 使用方法 2 : 緊急固定での使用方法

※ P6 ~ P8 をご参照ください。

■ 使用方法 3 : 腕の可動域を調節する方法

腹部用ベルトとの組み合わせで、緊急固定と緩和抑制のレベル変更に速やかに対応することができます。

※ P10 をご参照ください。

■ 使用方法 4 : 腕の可動域を狭くしたまま固定する方法



上記の「腕の可動域を調節する方法」で手部/脚部用ベルトを装着したのち、短ストラップはマジックテープバンドに巻き付けず、腹上で留め付けます。胸部術後の縫合糸を抜去することを防止する場合などに向いています。

■ 使用方法 5 : 点滴固定部を引き抜かせないようにする方法



点滴を装着している側の腕は、長ストラップをなるべく短くしてベッドに取り付けます。反対側の腕は、長ストラップを点滴固定部に腕が届かない程度の長さにして、ベッドに取り付けます。そうすることで、腕の自由を最大限確保しながら、点滴固定部の引き抜きを防止することが可能になります。

■ 使用方法 6 : 足の可動域を調節する方法

脚部/肩部調整ストラップとの組み合わせで、緊急固定と緩和抑制のレベル変更に速やかに対応することができます。

※ P10、P21 をご参照ください。

CHECK! マジックテープバンドのお取扱い注意点

保管や洗濯の際は、付属の「洗濯カバー」をマジックテープの黒面に貼り付けておくよう、お願いいたします（図1）。カバーを貼付けておくことで、黒面に糸くずや紙の毛が絡まることを防止します。また、カバーを貼付けずに手部/脚部用ベルトを巻いて保管しますと（図2）、マジックテープの黒面とベルト面が接触することで、ベルト生地が損傷しやすくなります。

洗濯カバーは別売が可能です。また、ベルト本体の損傷がない場合に限り、マジックテープ白面と黒面の貼り替え修理が可能です（有料）。



(図1)

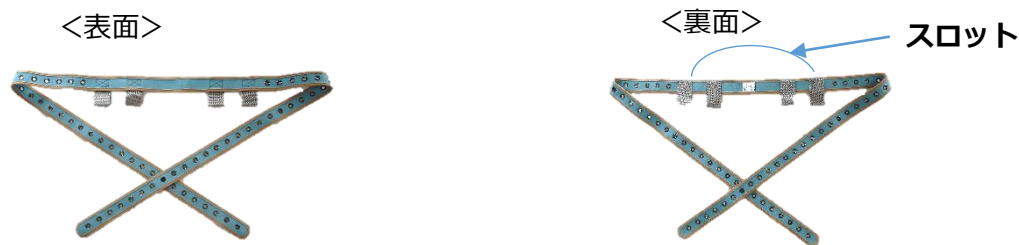


(図2)

製品ごとの使用方法

【PINEL # 8 脚部／肩部調整ストラップ】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・興奮度の高い患者に、緊急時の上体抑制を行います。
- ・臥位にある患者が急に興奮して起き上がることを防止するために、上半身の起き上がりを抑制します。
- ・足の可動域を瞬時に調節し、状態の不安定な患者の急な興奮に対応することができます。

■ ご使用前に（点検）

- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。
- ・スロットの縫い目が外れていないか、点検をお願いいたします。

■ 使用方法 1 : 緊急時の上体抑制

※ P9 をご参照ください。

■ 使用方法 2 : 上半身の起き上がりを抑制

※ P22 をご参照ください。

■ 使用方法 3 : 足の可動域を調節

① 脚部／肩部調整ストラップをベッドに固定します。



脚部／肩部調整ストラップを左写真のように、黒またはグレーのスロットの縫い目や製造番号表示タグが表にくるよう上に置きます（スロットの向きはベッド頭側・足側のどちら向きでも構いません）。患者の足首にあたる部分を目安に設置し、ベッドの固定部分にしっかりとゆるみのないように張り、ボタン・ピンで留め付けます。

② 手部／脚部用ベルトの長ストラップを、スロットに通してベッドに固定します。



手部／脚部用ベルトの長ストラップを脚部／肩部調整ストラップの黒またはグレーのスロットに通してから、ボタン・ピンでベッドの固定部分に留めます。スロットは左右対称位置にそれぞれ2箇所付いていますが、内側・外側いずれかのスロットを使って通すかによって、脚の開き具合が異なります。

スロットを立てた状態でストラップをくぐらせると、脚部／肩部調整ストラップと重なることでストラップがフィットします。



緊急固定で既に手部／脚部用ベルトを患者の足首に装着している場合は、足首のマジックテープバンドは装着したまま、手部／脚部用ベルトの長ストラップだけを一旦ベッドの固定部分から外して、スロットに通すようにします。

③ 手部／脚部用ベルトを患者の足首に装着します。



(図1)

(図2)

(図3)

患者を寝かせ、手部／脚部用ベルトのマジックテープバンドを足首に装着します。短ストラップはマジックテープバンドに巻き付けてボタン・ピンで留め付けます（図1）。

ベッドに固定した手部／脚部用ベルトの長ストラップを長めにしておくと、患者は自由に寝返りが打てるようになります（図2）。万が一、患者が再び興奮して動きが激しくなった場合でも、長ストラップを引っ張ることでストラップがスロットに引き寄せられて、瞬時に足の動きを制限することができます（図3）。

製品ごとの使用方法

【PINEL #1C ストラップ】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・分離型腹部用ベルトの体幹部と接続するために必要です。
- ・臥位の状態での寝返り幅を調整して、患者がベッドから転落しないようにします。
- ・患者を片側に固定して、背中 of 清拭や傷の手当てをしやすいようにします。
- ・脚部/肩部調整ストラップの長さが足りない場合に、つなげることで長さを延長することができます。
- ・緊急固定2の抑制レベルを更に引き上げて、固定を強化するときに使います。
- ・腹部用ベルトと接続して車椅子に固定することで、車椅子に座った患者の転落を防止します。

製品ごとの使用方法

■ ご使用の前に（点検）

- ・鳩目の外れや芯地の露出などの痛み等、異常がないかどうか、点検をお願いいたします。

■ 使用方法1 : 腹部用ベルト体幹部の接続用ストラップ

※ P16 ~ P17 をご参照ください。

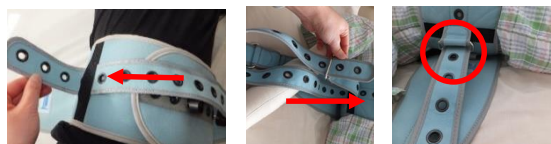
■ 使用方法2 : 寝返り幅の調整

① 患者に腹部用ベルトを装着します。



P16 ~ P18 の手順で、腹部用ベルトを患者に装着し、左右のストラップもベッドに固定します。

② 腹部用ベルトの両側のサイドバックルにストラップを通します。



(図1)

(図2)

(図3)

腹部用ベルト体幹部の左右横にあるサイドバックルに、ストラップのバックルがついていない方の先端からくぐらせます(図1)。ストラップの金属バックル手前までくぐらせたら、ストラップの金属バックルに、先程くぐらせたストラップの先端を通し(図2)、しっかりと引っ張って、ゆるみのない状態にします(図3)。

③ ストラップの先をベッドに固定します。



ストラップの先は、ボタンとピンを使って、ベッド本体へ固定します。



必ず患者の左右両方に装着してください。なお、患者が左右に転落しない長さを保ちながらも、十分な寝返りができて快適な睡眠が取れるよう、寝返り幅は適度に余裕を持たせてください。

■ 使用方法3 : 患者を片側に固定

① 患者に腹部用ベルトを装着します。

P16 ~ P18 をご参照ください。

② 腹部用ベルトの片側のサイドバックルにストラップを通します。



患者を左か右のどちらか片側に向かせて、横にしたときに上に来る位置のサイドバックルにストラップを通して、ベッドに固定します。患者の下位置にあるもうひとつのサイドバックルにはストラップを通す必要はありません。

製品ごとの使用方法

■ 使用方法 4 : ベルトの延長用として使用

脚部／肩部調整ストラップや手部／脚部用ベルトなどのベルト類の長さが足りないときに、ボタンピンを使ってつなげることで、延長用として使用できます。

■ 使用方法 5 : 緊急固定 2 の更なる強化

※ P11 をご参照ください。

■ 使用方法 6 : 車椅子での固定

① 患者に腹部用ベルトを装着して車椅子に座らせます。



腹部用ベルトの上方向へのずり上がり防止のために、P19 の手順で股下ストラップをあらかじめ腹部用ベルトに装着しておきます。

P19 の手順で、腹部用ベルトと股下ストラップを患者に装着してから、車椅子に座らせます。腹部用ベルトに接続した左右のストラップは車椅子の背面に回します。

② ストラップを固定します。



①で車椅子の背面に回したストラップ同士を繋げ合わせます。

CHECK!



①の手順で股下ストラップがない場合は、別のストラップ 1 本を用いて股下ストラップの代わりにします。背面に回して繋げた腹部用ベルトの接続ストラップに、別のストラップのバックル側を繋げます。バックルの付いていない方のストラップの先は、車椅子の下を通して患者の股の間から引き上げ、腹部用ベルト体幹部に装着します。

③ 脚部／肩部調整ストラップを患者の肩に装着します。



患者の車椅子からのずり下がりを防ぐために、脚部／肩部調整ストラップを患者の肩にたすき掛けにして、車椅子のヘッドレスト背面に固定します。

④ 必要あれば手部／脚部用ベルトを手首に装着します。



殴りかかるなど攻撃性のある患者の場合は、手部／脚部用ベルトを患者に装着して長ストラップを車椅子本体に取り付けることで、手の動きを抑制することができます。

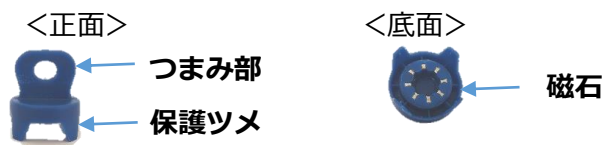


- ・車椅子への長時間の固定は、肺塞栓症などのリスクを引き起こす可能性がありますので、ご注意ください。
- ・患者を不適切な姿勢で座らせることで、「滑りすわり」や「斜めすわり」の原因となります。身体拘束を行う前に、患者の姿勢を安定させるための座位保持の方法を、まずは実践してみてください。

製品ごとの使用方法

【PINEL #5 マグネットキー】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・ボタンとピンを用いたロックシステムを解除するときに使用します。

■ ご使用の前に（点検）

- ・保護ツメの変形や破損がないかどうか点検をお願いいたします。
- ・磁石カバーがない旧型のタイプをご使用の場合は、マグネットの脱落がないかどうか確認をお願いいたします。

■ 使用方法

- ① ピンとロックされた状態のボタンの上に、マグネットキーを被せます。



ロックされている部分の生地を手で押し込み、ピン底を上押し上げて、ピン軸が生地上部に出るようにしてください。ボタン底と生地間に隙間を作ることで、ロックが解除しやすくなります。

- ② ボタンごとマグネットキーを持ち上げて、ロックシステムを解除します。



マグネットキーだけを持ち上げようとするとうまく解除ができない場合がありますので、ボタンと一緒に持ち上げるようにしてください。それでも解除が難しい場合は、ボタンを回転させてボタンとピンが接触する位置を変えて試してみてください。

【PINEL #6 A ボタン】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・ベルト類を留め付けるときに、ピンと合わせてロックするために使用します。

■ ご使用の前に（点検）

- ・ピンと合わせてロックしてみて、正常に脱着ができるか点検をお願いいたします。
- ・突起の破損やピン穴の詰まりなどがどうか、点検をお願いいたします。

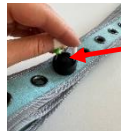
■ 使用方法

- ① 鳩目穴から出したピン軸の上にボタンのピン穴を被せます。



ピン軸にしっかりとボタンを押し込んでロックすると、ボタン内部の金属ディスクの中央部にピン軸先端の溝がはまり、「カチャッ」と音がします。正常にロックされているかどうか、ボタンを数回引っ張ってみて、外れないかどうか確認してください。

■ 緊急解除の方法（旧型のボタンは対応しておりません）



ボタンの上部にある2つの小さな穴に画びょう等を同時に押し込むと、内部の金属ディスクを強制的に押し下げることができます（この場合ボタンを強制破損させるため、再使用は不可となります）。

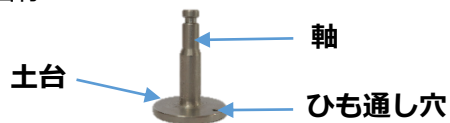


- ・ボタンの使用期限は、ご使用開始から2年程度となります。製造時期はボタン裏に「西暦下2桁」と「四半期表示2桁」で刻印されています（例：2025年1月～3月製造の場合、「25 Q1」表示）
- ・ボタン穴に汚物が入り込むなどすると、正常使用に支障をきたしますので、正常にロックできない場合は、速やかにご使用を中止してください。

製品ごとの使用方法

【PINEL # 6 B ピン】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

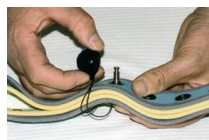
- ・ベルト類を留め付けるときに、ボタンと合わせてロックするために使用します。

■ ご使用の前に（点検）

- ・ボタンと合わせてロックしてみて、正常に脱着ができるか点検をお願いいたします。
- ・軸の破損や先端の摩耗などがどうか、点検をお願いいたします。

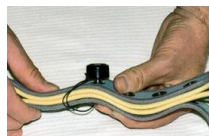
■ 使用方法

① 鳩目穴からピン軸を出します。



留め付けたいベルト類を重ねて鳩目穴を合わせます。一番下にある層の鳩目穴からピン軸を差し入れ、一番上の層の鳩目穴から出します。重ねたベルトを指で押し挟みながら、ピン先端がしっかり見えるように出してください。

② 鳩目穴から出したピン軸の上にボタンのピン穴を被せます。



ピン軸にしっかりとボタンを押し込んでロックすると、ボタン内部の金属ディスクの中央部にピン軸先端の溝がはまり、「カチャッ」と音がします。正常にロックされているかどうか、ボタンを数回引っ張ってみて、外れないかどうか確認してください。

【PINEL # 6 L ひも付きボタン・ピン】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・一对のボタンとピンが紛失しないよう、紐でつなぎ合わせたものです。

■ ご使用の前に（点検）

- ・ボタンとピンそれぞれの項目に記載の点検をお願いいたします。

■ 使用方法

※ボタンとピンそれぞれの項目をご参照ください。

CHECK! 腹部用ベルトの体幹部分の留め付けには、紐の付いていないボタンとピンをご使用ください。



患者がひもを強く引っ張った場合の怪我防止策について

ボタンの【新】【旧】により、怪我を防止するための構造が異なります。

現在販売のボタンは紐のつなぎ目にプラスチックパーツが付いており、過度の負荷がかかるとパーツの結合部分が外れる設計になっています。

プラスチックパーツのないボタンは、過度の負荷がかかると紐の結び目が外れるようになっています。

製品ごとの使用方法

【PINEL # 1 0 キャリングバッグ】

■ 各部位の名称



製品ごとの使用方法

■ 使用目的

- ・ # 7 (総合セット) のベルトや付属品類を収納することができます。
- ・ ショルダーベルトを使用して肩にかけて、持ち運ぶことができます。

■ ご使用の前に (点検)

- ・ ショルダーベルトの根元や生地に破損がないかどうか、点検をお願いいたします。

■ 組み立て方法 (バッグ本体は各板を取り外し、折りたたむことができます)

- ① バッグ本体を箱状に広げます。
- ② 底板をバッグの底に敷きます。
- ③ 側板をバッグの左右に貼り合わせます。
- ④ 内側の仕切り板をバッグの内部に貼り合わせます。



■ 使用方法



左写真のように、総合セットに含まれる製品全てをバッグ内に収納することができます。

手前のピンを差し込む穴には、ひも付きボタン・ピンはボタンをロックせずにピンを上から差し込んでおくと、使用したいときにわざわざマグネットキーでロックを解除せずに、すぐに使用することができます。

バッグ外側の左側面には、緊急用カッターを収納する専用のポケットがあります。

【PINEL # 4 0 緊急用カッター】

■ 各部位の名称



■ 使用目的

- ・ 火事などの緊急避難や、ボタンピンの脱着不能等、マグネットキーを使用せず緊急的にロックシステムを解除したい場合、ベルトそのものを安全に切断することができます。

■ 使用方法

- ① 指通しに人差し指をひっかけて、親指と一緒にカッターをしっかり支えます。



- ② ストラップを切断したい場所で、鳩目金具を避けるよう、垂直に上から刃面に当てて強く手前に引きます。



こんなときは

お困りの際は、下記の内容をご確認下さい。下記で解決しない場合は、弊社までご連絡下さい。

分類	こんなときは	こうして下さい
付属品	ボタンとピンのロックが解除できない	①から③の順にお試しください。 ①ロックしている生地をしっかりと押し挟み、キーとボタンを一緒に素早く持ち上げる動作を何度か繰り返してみてください。 ②ボタンを少し水平にクルクルと回転させて、①の動作を試して下さい。 ③ボタンの上部にある小さい2つの穴に、同時に画びょうなどを押し込むと、内部の金属ディスクを手動で下げてロックを解除することができます。ただし、ボタンが破損し使用できなくなります。それでも解除できない場合は、外科用ハサミまたは#40「緊急用カッター」を使用してベルトを切断して下さい。
付属品	ボタンとピンが合わさった状態でボタンを振ると、カタカタと音がする	ロックシステムは、ボタン内部にある半月状の金属ディスクがピン軸の溝とぶつかることでロックされる仕組みです。正常にロックされている証拠ですので、心配ありません。
付属品	ボタンの製造時期はどうやって確認するのか	P4「製品のお取り扱いについて」をご参照下さい。
付属品	マグネットキーのツメが変形している	ピネル製マグネットキーは、マグネットの強力な磁力がペースメーカーなどの医療機器へ影響を及ぼさないよう、4本の保護ツメにより磁力がツメの内側にのみ作用するように設計されています。 万が一保護ツメが折れますと、折れた断面で怪我をする恐れがあるため、弾力性のある素材で作られています。そのため、多少内側や外側に曲がる場合がありますが、不具合ではありませんので、人力で形を戻すことができます。
付属品	ボタンについている小さな突起穴が取れた	この穴とピン底の穴に専用の紐を通してつなげると、#6L「ひも付きボタン・ピン」になります。一对の組み合わせとしてボタンまたはピンの紛失を防ぐことができます。 万が一患者が紐に指をかけると、絡ませて指がうっ血したり怪我をする恐れがあるため、安全上、紐を強く引っ張ると突起部分が取れるようになっています。現在のタイプのボタンでは、より安全性を向上させるため、紐を繋げているプラスチックパーツが外れる設計になっています。
付属品	軸分離型（初代製品）のピン軸が外れた	分離型ピンは、非常に強力な接着剤を使用し軸と土台を接着させておりますが、まれに塩素や非常に長期に渡る使用などで、外れてしまったというケースがございます。そのままお使い頂くことは危険を伴うため、速やかにご使用をお控え下さい。
ベルト類	腹部用ベルトのみ装着時に、患者が上半身を起こした状態で、ベッド上で何周も体を回転してしまう	一体型の旧タイプ腹部用ベルトをご使用の場合、現行製品の分離型腹部用ベルトに付いているインターロッキングストラップの灰色のカバーがないため、何周も回転してしまう恐れがございます。股下ストラップを併用し、それでも回転する場合は、片足に手部/脚部用ベルトを装着してください。なお、耐用年数や安全上の観点より、現行製品の腹部用ベルトへのお買い換えを推奨しております。
ベルト類	抜け出し防止ベルトを装着すると、だんだん緩んでくる	患者の動きにより、腹部用ベルトの体幹中央部での留め付け部分が徐々に引っ張られてずり上がることがあります。そのため、肩にかかるストラップ部分が緩む原因となります。定期的に装着状態を確認し、ずり上がりや緩みを直してください。

こんなときは

お困りの際は、下記の内容をご確認下さい。下記で解決しない場合は、弊社までご連絡下さい。

分類	こんなときは	こうして下さい
ベルト類	腹部用ベルトの左右のストラップをベッドに留め付ける際、ボタンピンをどのくらいの位置に固定すればいいのか、よく分からない	ストラップのどの鳩目穴を使ってボタンピンを留め付けるかは、マットレスになるべくかからない位置（底板やフレームに近い下方）に付けてください。マットレス付近は、患者の手が当たりますと怪我をする恐れがあります。
ベルト類	腹部用ベルトの左右のストラップをベッドフレームではなく、ベッドの底板につけるとは、どういうことか	昇降式ベッドをご使用の場合、ストラップをベッドの非可動部分（本体枠になっているフレーム）に取り付けた状態でベッドをギャッチアップさせますと、ストラップやボタンピンの破損につながる恐れがあります。そのため、専用の取付け金具などが無い場合は、マットレス下の底板の穴の隙間からストラップを通して、ギャッチアップの妨げにならないようにして下さい。 底板にストラップを通す隙間がない場合は、ベッドをギャッチアップしないようご注意のうえ、ベッド本体枠のフレームへ取り付けることもできます。
ベルト類	手足を抑制しながらも、ある程度手足の動きに自由な幅を持たせたい場合、どうすればいいのか	手…使用するベルト【腹部用ベルト】【手部/脚部用ベルト】 腹部用ベルト横の黒いスロットに手部/脚部用ベルトの長いストラップを通し、可動範囲の幅を決めてから、ベッドフレームに通し固定して下さい。（P10またはP20 参照） 足…使用するベルト【脚部/肩部調整ストラップ】【手部/脚部用ベルト】 手部/脚部用ベルトの長いストラップを脚部/肩部調整ストラップのスロットに通し、可動範囲の幅を決めてから、ベッドフレームに通し固定して下さい。（P10またはP21 参照）
ベルト類	腹部用ベルトや手部/脚部用ベルトを巻き付ける際、患者の圧迫感を軽減するためにタオルなどを巻いた上にベルトを巻き付けてもいいかどうか	腹部用ベルトはパジャマなど着衣の上に直接巻き、手部/脚部用ベルトはできるだけ素肌に直接巻いてください。 あいだにタオルなどが挟まれていると、患者の動きでタオルがずれたり外れた場合、ベルトの巻き付けが緩くなります。位置ずれによる窒息や抜け出しなどの危険が生じるため、タオルや衣服がベルトの内側に挟まらないようにしてください。 腹部用ベルトの締め付けを緩めたい場合は、股下ストラップや抜け出し防止ベルトを併用して位置ずれを防ぐようにしてください。 手部/脚部用ベルトは患者の手首の形状に沿って、マジックテープを少し斜めに留め付けることで、血流を妨げることなく均一な圧力がかかります。ぴったりと留め付けることが必要ですが、マジックテープだけで不安な場合は、短ストラップをその上から巻いてください（このとき締め付けないように注意する）。
ベルト類	腹部用ベルトや手部/脚部用ベルトなど、複数のベルトをベッドに留める際、一緒に留めたほうがいいのか、それぞれを別の位置に留めたほうがいいのか	下記のどの方法でも可能です。例えばベッドの底板の穴にくぐらせている場合は、穴の幅が狭ければ③の方法を使うと留め付けやすくなります。また、それぞれのベルトを状況に応じて付けたり外したりしたい場合は、①の方法を使うと、取り外しが容易に行えます。付け外しを頻繁に行わない場合や、必要最低限のボタンピンで留め付けたい場合は、②の方法が適しています。 ①一本ずつ、それぞれボタンピンを使って留め付ける。 ②複数本（ベルト4層以内）をまとめてひとつのボタンピンを使って留め付ける。 ③ベッドに固定してあるベルトの鳩目穴を使って、別のベルトの鳩目穴を重ね合わせてボタンピンを使って留め付ける。

よくあるご質問

よくあるご質問をまとめました。下記で解決しないご質問は、弊社までご連絡ください。

分類	ご質問	ご回答																														
ベルト類	ベルト類の見分け方がわからない	<p>ベルト生地は水色に近い青色で共通していますが、ベルトの形状と、ベルトの周囲を縫い付けているバイアステープを各ベルトごとに異なった色にすることで、判別できるようになっています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>製品名</th> <th>テープの色</th> <th>形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腹部用ベルト（小）</td> <td>青</td> <td>太い帯状</td> </tr> <tr> <td>腹部用ベルト（中）</td> <td>グレー</td> <td>太い帯状</td> </tr> <tr> <td>腹部用ベルト（大）（特大）</td> <td>青紫</td> <td>太い帯状</td> </tr> <tr> <td>ストラップ</td> <td>グレー</td> <td>細長い紐状</td> </tr> <tr> <td>手部／脚部用ベルト（一般）</td> <td>グレー</td> <td>中央にマジックテープ</td> </tr> <tr> <td>手部／脚部用ベルト（大）（特大）</td> <td>緑</td> <td>中央にマジックテープ</td> </tr> <tr> <td>抜け出し防止ベルト</td> <td>緑</td> <td>X型のサスペンダー状</td> </tr> <tr> <td>脚部／肩部調整ストラップ</td> <td>茶</td> <td>細長い紐状</td> </tr> <tr> <td>股下ストラップ</td> <td>グレー</td> <td>ループの付いた幅広の紐状</td> </tr> </tbody> </table>	製品名	テープの色	形状	腹部用ベルト（小）	青	太い帯状	腹部用ベルト（中）	グレー	太い帯状	腹部用ベルト（大）（特大）	青紫	太い帯状	ストラップ	グレー	細長い紐状	手部／脚部用ベルト（一般）	グレー	中央にマジックテープ	手部／脚部用ベルト（大）（特大）	緑	中央にマジックテープ	抜け出し防止ベルト	緑	X型のサスペンダー状	脚部／肩部調整ストラップ	茶	細長い紐状	股下ストラップ	グレー	ループの付いた幅広の紐状
製品名	テープの色	形状																														
腹部用ベルト（小）	青	太い帯状																														
腹部用ベルト（中）	グレー	太い帯状																														
腹部用ベルト（大）（特大）	青紫	太い帯状																														
ストラップ	グレー	細長い紐状																														
手部／脚部用ベルト（一般）	グレー	中央にマジックテープ																														
手部／脚部用ベルト（大）（特大）	緑	中央にマジックテープ																														
抜け出し防止ベルト	緑	X型のサスペンダー状																														
脚部／肩部調整ストラップ	茶	細長い紐状																														
股下ストラップ	グレー	ループの付いた幅広の紐状																														
ベルト類	ベルトのサイズや材質はどこに書いてあるのか	弊社ホームページまたは別冊の「製品一覧」をご覧ください。																														
ベルト類 付属品	旧製品の販売時期や特徴について	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部用ベルト 旧製品は、発売当初～2011年4月まで販売。体幹部と左右の接続ストラップが一体型の形状です。サイドバックルは金属製です。インターロッキングストラップを覆う保護カバーはありません。 ・延長ベルト 旧製品は、発売当初～2019年5月まで販売。鳩目穴が4つの形状です。 ・キャリングバッグ 旧製品は、発売当初～2017年12月まで販売。ロゴデザインや内蓋のラベル印字が旧デザインです。緊急用カッター用の収納ポケットや内蓋のクリアファイルは付いていません。 ・ボタン 別冊の「製品一覧」 P9 をご参照ください。 ・ピン 別冊の「製品一覧」 P10 をご参照ください。 ・マグネットキー 旧製品は、発売当初～2009年3月まで販売。内側のマグネットを覆うプラスチックのカバーがありません。 																														
ベルト類	腹部用ベルトの各サイズのイメージが分からない	一般的には、中サイズは標準体型の大人の方に適しています。小サイズは子供の方や、やせ体型の方などに適しています。大サイズは体格がしっかりした方や、やや肥満気味の方などに適しています。肥満体型など腹囲のより大きい方には特大サイズが適しています。																														
ベルト類	腹部用ベルトの大きなサイズを使った場合と、延長ベルトを使用して胴回りを延長した場合の違いについて	延長ベルトを使用すると、お手持ちのベルトを買い替えることなく腹囲を延長させることができますが、腹部用ベルト単体だけを使用するよりフィット感が低下します。また、股下ストラップや抜け出し防止ベルトを使用する際に、留め付けるベルトが増えることで手順が煩雑になることがあります。腹部用ベルトを必要なサイズごとに購入すると、フィット感が向上したり手間は軽減されますが、様々なサイズのベルトを保管するスペースや買換え時の金額が大きくなります。																														

よくあるご質問

よくあるご質問をまとめました。下記で解決しないご質問は、弊社までご連絡ください。









分類	ご質問	ご回答
ベルト類	腹部用ベルトの体幹部の端に一つだけある鳩目の用途	ストレッチャーなど幅の狭いベッドで使用する場合、ストラップをベッドへ固定する留め付け用として使うことができます。
ベルト類	寝返り調整用のストラップはどのくらいの緩みを持たせたらいいのか	転落防止目的の場合、必ず患者の左右に付けてください。緩みの幅は、患者が寝返りを打つことができ、かつ、ベッドから転落しない長さを目安にしてください。寝返り調整用のストラップは、腹部用ベルトのストラップと一緒に留め付け、ベッドへの取り付け、どちらでも可能です。
ベルト類	手部/脚部用ベルトのマジックテープカバーはどうして必要なのか	マジックテープカバーは、手部/脚部用ベルトを購入時に1枚付いてきます。保管や洗濯の際にマジックテープの黒面に貼っておくことで、糸くずや髪の毛などの付着を防ぐ効果があります。また、ベルトを収納するときにマジックテープの黒面がベルト生地を引っ張って損傷させることを防ぐこともできます。ベルトの耐用年数を保つためにも、保管・洗濯の際はできるだけお使いください。1枚から別売も可能です。
ベルト類	洗濯時の注意点について	P4「製品のお取り扱いについて」をご覧ください。
ベルト類 付属品	何キロぐらいまでの負荷に耐えられるのか	ベルトや付属品は全て450kg以上（人力で外せる力以上）の耐引力があります。
ベルト類 付属品	塩素系の洗剤を使用してはいけない理由	塩素系洗剤を使用されると生地や金属を傷め、摩耗が早くなる恐れ、また付属品の分離を引き起こす可能性があります。消毒が必要な場合は、酸素系漂白剤やアルコール製剤をご使用ください。
ベルト類	一般用の乾燥機にかけると、鳩目の金属が熱を持ってしまう。専用の洗濯ネットのようなものがあるかどうか	乾燥温度が高温になると、金属への影響はありませんが、生地の縮みの原因になります。低温サイクルの設定がないようであれば、陰干しにて自然乾燥させてください。また、洗濯槽へ金属が直接接触すると、洗濯槽に傷が付く原因となりますので、市販の洗濯ネットに入れて下さい。バックル部分に靴下などを被せて保護することも有効です。
ベルト類	エアマットや低反発マットレスのような、弾力のあるマットレスで使用するについて	例えば腹部用ベルトは、ストラップがマットレスを横切るような形で留め付けます。腹部用ベルトの位置ずれを防ぐために緩みのないよう取り付ける必要がありますが、取付部分のマットレスが沈み込むと、患者の腰部分が沈み込んで不快感の原因になったり、正しく装着できない恐れがあります。抑制するベッドには硬めのマットレスを使用してください。どうしても弾力のあるマットレスを使用したい場合は、手部/脚部用ベルトなど腹部用ベルト以外の抑制帯を使用するか、柵上げなど別の方法での身体拘束を行ってください。
その他	デモ機を貸してもらおうことはできるのか	患者に使用することはできませんが、院内のスタッフ間で試用することは可能です。1週間程度を目安に、バック入り総合セットや腹部用ベルトの各サイズなどをご用意しています。詳細は弊社までお問い合わせください。
その他	使用マニュアルや映像マニュアルを見たい	弊社ホームページより閲覧とダウンロードができます。また、ネットワーク環境のないお客様は、弊社より印刷済みの文書マニュアル冊子やDVDの映像マニュアルをお渡しいたします（DVDは無料、冊子マニュアルは有料）。
その他	製品の価格を知りたい	弊社より直接購入されるお客様は弊社宛にご連絡ください。弊社以外の医療機器取扱い業者様を通じて購入されるお客様は、お取引先の業者様へご確認ください。

よくあるご質問

よくあるご質問をまとめました。下記で解決しないご質問は、弊社までご連絡ください。

分類	ご質問	ご回答
その他	修理はできるのか	ベルトの修理は、基本的に手部/脚部用ベルトのマジックテープの張り替えや、脱落した鳩目の付替えなどを行っています。ベルトの破損状況や耐用年数などから、修理をお引き受けできない場合があります。付属品類の修理は行っておりません。修理金額等の詳しいお問い合わせは弊社までお願いします。 また、製品の保守点検などは行っておりませんので、お手数ですが、本書に従い、お客様にて点検をお願いいたします。
その他	ベルトの修理が難しい破損状況とは、例えばどのような状態を指すのか	弊社では、縁用のバイアステープの張り替えおよび、最表面のマイクロファイバー生地（青い生地）の張り替え補修は可能ですが、バイアステープの内側にある繊維の断裂や、生地表面下の独立気泡スポンジおよび芯地の補修を承ることはできません。 損傷がベルト内側に及んでいる場合、修理を行っても強度や機能を安全に回復することが難しいためです。 修理をご検討の場合は、芯地の露出や繊維の断裂がないかどうかをご参考をお願いいたします。
その他	使用研修をしてもらうことはできるのか	最新の情報については、弊社ホームページの「注意事項および研修」から「研修のご案内」をお読みください。
ベルト類 付属品	補償期間について	製品の初期不良については、ご購入より半年以内の場合、交換対応させていただきます。
ベルト類 付属品	返品、交換について	未使用の製品に限り、商品到着より1週間以内にご連絡頂きました場合は、返品および交換の対象とさせていただきます。 ただし、お客様都合による返品および交換の場合は、弊社へのご返送にかかわる送料はお客様の元払いにてご対応ください。

腹部用ベルト装着のチェックリスト

1	緩和抑制帯以外の全手段を考慮したか？	
2	緩和抑制帯を取付けるための周囲の空間はあるか？	
3	緩和抑制帯の状態は良好か？例えばボタンはキーで簡単にロック解除できるなど	
4	ベルトはベッドの中心に置かれているか？注意：ベッド柵は上がっていること。	
5	取付け用ストラップはベッド柵ではなくベッド枠の動かない部分に留め付けられているか？ 患者が届かない個所に留め付けること。	
6	ベルトはマットレスがへこむぐらいに、非可動部分にきつく留め付けられているか？	
7	腹部用ベルトの体幹部分が、患者のへその上を通るような場所に留め付けられているか？	
8	患者が息ができるよう、かつ上下に動かないように、腹部用ベルトがしっかりと着用されているか。	
9	全てのボタン・ピンをしっかり留めた際カチッと音がし、正しく操作できるかチェックしたか？	CLICK 
10	黒いボタンの底に圧力がかかっていない場合、キーで簡単にボタンのロック解除ができるか？ 解除に手間取る場合は製造日を確認し、使用開始より2年以上経過した場合は早期交換する。	
11	黒いボタンの底に圧力がかかっている場合、患者を担当している全てのスタッフが、どのようにボタンのロック解除を行うか理解しているか？	
12	スタッフはマグネットキーの保管場所を理解しているか？	
13	緊急の場合や非常時は、背中の黒もしくはグレーの連結ストラップを簡単に手術用ハサミまたは緊急用カッターで切り、患者をベッドから離すことが可能であると全スタッフが認識しているか？	
14	点火の道具や切断の道具は、患者に届かない場所に保管されているか？	
15	患者が乱暴なら股下ストラップ、抜け出し防止ベルト、脚部／肩部調整ストラップを併用。	
16	両側のバックルにストラップを通すこと。ベッド柵は常に上げ、全ての隙間を埋めること。	
17	勤務する病院の観察手順を理解しているか？	

【製品の仕様やサイズ等について】

別冊の「ピネル製緩和抑制帯 製品一覧」をご覧ください。
また、本書および映像による説明資料は、ホームページ内およびDVDにてご覧いただけます。
HP : <https://pinel-japan.jp/>

【本書および製品についてのお問い合わせ先】

ご購入元の販売代理店様もしくは、弊社までお問い合わせください。

輸入販売代理店

株式会社 ピネルジャパン

住所 : 〒226-0016 横浜市緑区霧が丘6-8-1-101

電話番号 : 045-444-9115 (土日祝を除く平日10:00~16:00)

FAX : 045-444-9116

E-mail : green@pinel-japan.jp

HP : <https://pinel-japan.jp/>

